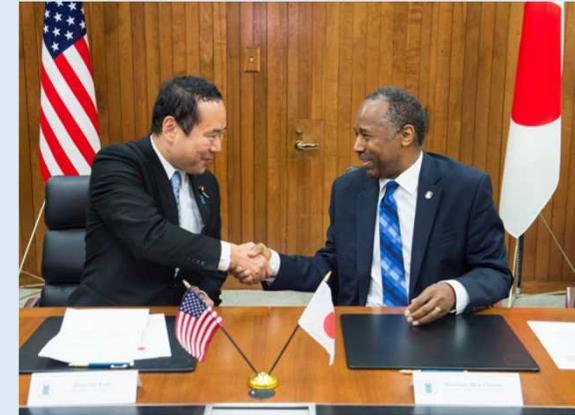




米国住宅都市開発省（HUD） Seth Appleton次官補 来日 日本の高齢者支援の取組を視察

- 当研究所では、2017年6月に日米4機関により締結された協力覚書に基づき「高齢者の地域居住（Aging in Place）」をテーマに共同研究を行っている。
- 2020年2月、米国HUDからSeth Appleton次官補他が来日し、東京・名古屋近辺における高齢者支援の取組を視察。
- 今後さらに加速する高齢化社会を見据え、日米それぞれが抱える課題の解決に向けて、先進的な取組事例や、調査・研究から得られた知見等について意見交換を行った。



2017年6月 研究協力覚書締結式
(写真：米国住宅都市開発省提供)



ユーカリが丘（千葉県佐倉市）視察

今後の研究方針

①多世代がともに住む住居に関する革新的な戦略

Innovative Strategy that actually promote generational diversity/
supports across multigenerational residence place

※それぞれの世代に対してどのような支援が必要となるかといった施策も含む

②包括的なコミュニティベースの支援

comprehensive community-based supports

※コミュニティセンター、高齢者の社会的孤立への対応、質を高めるためにどういった生活支援をしていくかといったことを含む